植村
植沢
植田
植木

植村

畧譜 地

共又

二百十一冊ノ内

内閣文庫
番號 和 36088
冊數 211(105)
函號 156 17

内閣文庫
和書
三六・八八 號
三 冊
五六函 一・ 架

閣
74

源姓　　　　高武守備

植村　本氏支族　　五好段
右之内一文五寸剣指授
蔭指授

植村新六郎氏義孫男

植村太郎八　　常力

奉職

清席表年仕来納源七郎洋近附
之人相与件の源七郎え打常力も次
手脇候しれ又会源七郎ゟ傳手取
力を以掃常力服ま両源七郎と称号

記録御用所

寔すこの外
廣く世ニ知られ候ものにて毎度の事ニ而申上

恭兄　植村左膳　左京

父ハ当平世をしらぬ左京初號より伯父
遠藤来斎ニ随て法印教諭をうけしかれり
左膳と改嫁業師範別当因幡菊流と
なり左膳法印と云元服二年味方京
江津の附

東照宮之御加増にして名古屋蔵より
来り候棒手組にて某池を相選候左膳
恭兄と称し蔵状物
今府中ニ而京新鉄屋方に相勤候よし門之
弟子と元ハ組頭役付来なし縫殿兵衛
秘傳相承之者并役とて其外弐組諸役皆伝
之内兵頭留守居大久保長左衛門様御組
なる仕合ニ而京面面々諸元町役人取捌兼々
是迄名字名乗不申通し候而自分共ニ候而

右之者共可申渡旨被仰出候ニ付申渡可

忠義仍感状如件

元亀三壬申年十二月廿二日　家康

梅村左衛門
　　　　殿

一右之出陣信玄〇天正十二年十二月長久手

戦場ニ而注鉄〇同十八庚寅年三月小田原

御陣

東照宮え上意をうけ武蔵岩槻城へ陽おかり

年八十六ニ而卒去〇十月廿日　八番ニ大手門

ニ和り軍勢ニ此んならく御味方ニ秀忠公之

御のき感状を被為置左衛門ニ相の

よし伝ハり

東照宮より左衛門ニ上総国佐倉城ニ

其他三ヶ所を預り〇其後慶長年中

逆意の時ニ出て右之仲間相伝

年の末ニ伝ハるハ佐倉城ニ後近国乃

城付を仕置をハ下さつ仕向ヲ此れ相添候

加様武功之者なり

台徳院殿ニ奉仕同十二丁未年十二月任從五位下
同十六辛亥年正月十九日死七拾六歳
法名勝甫要玄葬寺号

泰勝　植村主膳正　常方

慶長元年十九歳ニして
東照宮ニ奉仕同十年台徳院殿附属一
手ノ小属し従御小姓番ニ相勤ム五千

東の二階ニ陰下の三万石武ふ二萬什九
歳と号し同七年ニ父ニ代
台徳院殿へ附ら与え勝甫ニ先途同十八年
御旗本馬同十九年御旗ニ馬とかへ
足軽寄合あり抑ニ御錫所ニ卑ニ添らる
同廿年正月陣ニ御旗ニ而ニ属
公方ヲ常方ニ受ふ十二打も無申
営上の御様川ニ而家ニ人萬歳の後揃

山まて
東照宮へ獨御礼の節 御直ニ給之○
元和六庚申年 大番組○同九年
大猷院殿附○寛永二年九月百俵ニ
加増知行と結弐百石と称合七百石の采
地下賜○寛永十酉年 加禄弐百石
叙爵ニ信濃守と称○年号知之二月廿
二日依余辺御門奉行ニ付為何寄拾他
勲之四千書奉行職○寛永十五戊寅年十二月

廿日死七十歳七号法名門号院葬

泰親　植村左衛門　帯刀

慶長十八癸丑年
台徳院殿
大猷院殿より御小人○寛永九年叙爵○
同十二年家督○正保二酉年六月大目
付○寛文二卯年八月十四日死
葬地同上

恭治　植村左京

寛永拾四年初見○延宝元年十一月
廿六日死　同日葬　栢八寨　葬地同上

忠明　植村右衛門　節力

寛勝○寛文八申年十一月廿二日正書院
番入○同九酉年十二月廿二日大御番入○
天和二戌年九月廿八日五科武了在之

加様之儀○貞享元子年十月廿二日寺
石上野東寺日須観乃时二條在番より
帰之太平父之かゝり之野東寺と論○元
禄六酉年十月廿二日病死○同九子年
父恭明老令ニ付式役君之丈之子在
知○同年十一月十六日死○栢七寨葬
地同上

正明　三郎兵衛　植村太衛門　太平

元禄九子年八月六日甲府殿〇同年栄光
〇同十四巳年家継〇同十一寅年綏府加
番〇同十二年十一月東叡山火消〇宝永
子年九月朔日日光山御参詣御参詣
天明之頃代参〇同六巳年二月七日病死
小山殿ニ叙御書院番御仕立され候ハ
近年五万石ニ而御維持御番
思召御家筋之江戸城へ被召
向後共五万石ニ而御家筋之江戸詰

一 御供番将軍　宮本之御判物
等之御殿山ニ而御成之節今一御供仕
〇正徳二辰年四月十一日日光山御参詣御殿戴〇同三巳
年九月二十日日光山御参詣御殿戴〇享保二
年八月十一日日光山御参詣〇同六丑年十一月
廿日日光山御参詣御殿戴〇同八卯年五
月廿四日大番頭〇同十一午年三月十七
日今京之上番被仰付〇同十三申年八月
十二日大坂之番九月朔日出立〇同十四酉

年十二月廿七日死江戸ニ葬泰叟徳院

忠之　植村武助

手前ニ而宝暦元年三代目植村

手当ハ致出来不申断絶

恒紀　植村左作弟　小次郎　大学

長門守

享保十四酉年十二月廿七日取立○同廿

卯年九月十八日一橋御門番被仰付

有徳院殿御代右之御門　通御の御供致

候節出番所へ罷出居候處御合のうち

御意の上ニ而御言葉○元文二巳年十二月

十九日大坂御定番○寛延二巳年十月

廿日御暇被下○同四卯年正月廿六日

病死○宝暦元未年十一月十二日知植村

手前一件ニより植村相模守へ御預○同廿

酉年八月八日被免植村求馬へ御預ケ

元○同丙寅年七月廿二日死江戸ニ葬

葬地同上

尚利

母ハ千代松女　岡右衛次郎

元文二巳年九月廿七日生　母ハ安永

小人論之〇寛延二巳年四月四日死

前様九歳葬　葬地同上

寿利

実ハ西尾右馬ノ助忠豪第二男　植村紀三郎

寛延二巳年十二月廿八日年ヲ養子ト〇宝

暦元未年父之跡〇時ニ新規御小

普請入〇宝暦〇同二申年正月廿九日叙

爵〇同三酉年十月九日死十八歳葬

地同上

泰高

実ハ植村攝津守忠高長男　植村五郎八　帯刀　岳之助

宝暦三酉年十二月廿七日養子〇明和六

養子ノ日ロ年十二月十一日相続

丑年十二月十七日御使番〇同年十二月廿八日

明和○同七寅年八月九日被召出
同月廿六日出府○同八卯年正月廿七日
御備○同九辰年十一月廿日新番組
○安永七戌年九月十九日小普請入○
天明四辰年十月十日死[illegible]
地[illegible]

泰郷

植村久郎八　弟[illegible]

[illegible]

天明四辰年十二月廿六日[illegible]○寛政
同六寅年十二月廿日中奥御番[illegible]
[illegible]○同七卯年十月廿八日[illegible]
壮健

同年十二月十九日[illegible]

源姓　　　　　高五百石

○植村　　　　五兵衛　九二文字割指授
　　　　　　　　　　　藤指授

植村右衛門泰忠次男

改泰
　植村平太郎　　　主水

　元和六申年十七歳ニ而
大猷院殿御小性○同九亥年二百俵被下之
書院番○大番○寛永九申年　加増
百石○同十三子年十二月廿八日死　二拾七歳

渡辺大和守組

恭義　植村数馬　植村左馬　半助

寛永十三子年十一月廿八日（十一月廿四日）家来ニ付
家督是高之テ御手作○当百石之内
同ニ百俵之御○手付五百石加増○ニ
百石加増○正保四亥年四月大番
○承応元子年十二月十二日新御番○
延宝三卯年九月六日新御番組頭○

天和二戌年九月十二日（十四）御書院番組頭○同
三亥年四月四日二丸留守居○元禄
五申年十二月十五日病死○同九子年
四月十日死亡　葬地同上

恭信　植村亦八郎　半助

貞享元子年五月十日初見　元禄四年
五御書院番○小姓組番○御書院番○元
禄九子年七月九日家督五百石○
御小納戸　恭人○ニ百石　享保十二

未年四月廿二日死　葬地同上

恭邦

実瀬川勘三郎一威男

植村権太郎　半十郎　後三平

正徳三乙巳年八月廿六日舞台子ニ而享保

十二未年七月十一日西丸御書院番ニ被召出十六歳

九月廿日御目見勘定組番ニ入十八年十六月廿

四日御免ニ元文二丁巳年十二月四日西丸

小姓組ニ宝暦十一巳年七月廿八日死

六推寺来葬地同上

恭頼

実岩尾若狭守佐積男

植村半太郎　荒次郎

宝暦八年三月三日賀寿子ニ而

十三年十月四日部屋住ニ而十三未年

七月廿八日書院番ニ明和二酉年十四月

七日先手鉄砲頭佐藤若狭守組植村縫殿

郎末ニ相続仕候延ニ寛政月廿七日

四番目之息宝暦十七日出生〇同七寅ノ年
十二月廿九日病死〇寛政元酉年正
六月十九日ニ而献上ニ付被〇同二戌年九
月十八日小普請組入〇同三亥年十二
月二日小普請支配組入〇人勤ニ成小普請
〇同五丑年十二月十二日死去ニ付高木葬
地同上

泰根

植村平之助

高五百石

寛政二戌年十二月廿日初見〇同五丑
年十二月廿七日家督〇同十午年十二月
十日二而思召小姓組〇

○

源姓　高三百石

植村

右自古役家役格按之事 東照宮より一字御目見之上被召家 役より下大分一文字判格役相成候格按 家の字御判ニ而仰付候事ニ相成候 [illegible]

植村半助泰盛嫡男

植村助六郎

泰久

元禄九子年七月九日三百石相続小普請

同十四巳年大番○宝永七寅年

七月二條在番中死浅草大松寺葬

泰貫　　植村喜左衛門　勘十郎

宝永七寅年七月廿二日家督〇享保九辰年八月十二日甲府勤番〇（御免）宝暦九卯年二月六日死　年三十　甲府東光寺村能成寺葬

泰賢　　植村孫蔵

高三百石　内弐百俵ハ役料

宝暦九卯年六月二日家督（甲府勤番）〇明和五子年六月十二日死　上野国某寺葬

泰成　　植村久五郎

安永八戌年十二月廿日甲府勤番〇寛政二戌年十月死　弐拾九歳　葬地同上

源姓　高三百俵

植村　某政　此二文字剥損
　　　母某々相

植村左馬佐家貞次男

植村外記　千之助

改明

同吉宗卯年八月廿六日手屋百石〇元
禄元辰年四月十四日側衆小性〇同月十
同二午年四月御小性組番
八日前田宮内〇御寄〇同七辰年四月十日
五百石ニ百俵高直〇宝永元申年

六月廿一日御書院番○享保九辰年十一月
十六日死六拾九歳二而根本教寺葬

政庸

植村伊織　次郎四郎
植村後に伊織ト改　実ハ岡部長右衛門嫡嗣次男

享保己亥年八月廿八日初見○同九辰年
九月十日御書院番○同十巳年九月十一日
死法名七条栄葬地同上

政親

植村数馬　泰之助

享保十巳年十二月継目御番○延享
二丑年九月十七日家督相続○宝暦四戌
年十二月廿六日病免○同十二午年十二月
十六日御書院番○安永元辰年
九月十四日死法名植栄葬地同上

政恒

植村数馬　乙松

安永元辰年十二月十日家督○同七戌
年十二月廿一日初見○同九子年十二月

廿六日御書院番ニ入宝暦元未年十二月六日
病免之上寛政八辰年十二月廿九日死去
三ノ輪梅林寺ニ葬

政敦　植村千之助　後源太郎
高三百俵
寛政八辰年九月廿六日家督

源姓　高五百石
植村　家紋　丸ニ三文字剣梅鉢　五七ノ桐
植村左兵衛尉家政ノ曽

正澄　植村弥之丞　次郎三郎　百助
貞享四卯年八月廿六日三百石家督
元禄九年十二月
享保十五戌年十一月六日御役[illegible]同
十七子年九月[illegible]死
三ノ輪梅林寺ニ葬

一 政意　植村左京　七之助

享保八年十二月廿九日御切米

享保十五戌年六月廿八日御番入○同
十九寅年十二月廿二日御役替○宝暦九卯
年七月廿六日死○[illegible]葬地同上

一 政智　植村隼人　左門　文蔵

享保十六亥年十一月廿三日御番入○同廿
九寅年十二月廿二日[illegible]○[illegible]
寛三丑年九月十三日御小性組○明和
六丑年十一月十二日御小性組与頭○同年
十二月十八日布衣○安永申年四月
日光御供○寛政二戌年十二月十三日御免
○[illegible]○同八辰年四月十二日死
七[illegible]葬地同上

一 政福　植村一学　十蔵

高五百石

安永三午年七月六日遺領○同年

十一月廿二日勅定○宝永二乙酉年十二月廿
四日書状着○同四亥年十月廿九日落着
状着○同八辰年正月二日書状着○同六
寅年十一月十二日演〔以下不明〕依而刻留
同年附状之○同九巳年九月廿四日〔以下不明〕
之大的之〔以下不明〕附状也

源姓　　高弐百俵
植村　　實氏也此後飯沼之家を改植村改名　九二文字〔以下不明〕
飯沼之助太夫某男
植村伊太夫　初飯沼才蔵

西務

東照宮よりより植村之祖称之列
御祥ニて十八家の内より此處まて不備
その度ゝ武功ありし之数之事多く職

元亀元年始て織田信長ニ属し度々軍功有故ニ
其後日出演信織居信天正十四年
駿府へ御供の時より徳永家ニ居候并他
三千五百石ヲ賜フ
三郎殿ハ武道其外仕ハこれを　上意
を蒙り長谷川ハ京ニ在ル婦門ニ於て金銭金
合の事方京海野京ニ於て金銭出ると離
もを依て長篠ニ於て金銭給合し〳〵候
中ハ歓而折〳〵之田中城ニ入其の時殿ハ

長久手御陣天正十二年小田原の
役ニは豊臣太閤ニ従ひ在陣仕り候其後
東照宮へ召抱へられ関東ニ於て遍塞仕
相模ニて三百石を拝領仕り文禄元年
死去植村家

正元
植村庄兵衛
天正十九年

東照宮之御近習ニ而二百二拾石を領し在任死

正利　植村庄之助

安部門所御小姓○大御番○寛永信長○同年　芳長
元和五年正月十一日死ス二拾八歳

正相（ミチ）　植村庄次郎　庄兵衛　三郎兵衛

台徳院殿ニ仕ヘ大御番○寛永十一年十二月
十一日二百石加恩頂戴○
大猷院殿より加禄百石○常憲院殿
附属ス○寛文十戊年十二月廿九日死
芝天徳寺葬

正貞　植村庄兵衛　大蔵

常憲院殿ニ仕ヘ大御番○新御番○病死
○元和三年七月廿一日死ス葬地同上
御代替より家督再就杉浦門

寛永より前ニ　正保年中ニおゐて至まて
御代官より海上ニ而再殺之為て家絶

正登　植村長七郎　武助

寛文十三年九月三日
常憲院殿御代ニ被召出
より召出され小十人組ニ入百俵被下（杖）
於○正徳元年十二月十七日元ニ而御役
武田二元禄十七年同月御番入宗家

三戌年八月九日死　葬地同上

正矩　植村長清

常憲院殿ニ新ニ召出され御番衆之代官
植之助正英ニ享保九辰年十二月十一日死
八兵衛太郎絶

正保　植村又助　義人

元禄十二卯年八月廿二日常憲院殿ニ宝

永三戌年十二月廿二日於江戸生〇同甲子年八
月廿六日死 出府 指ケ谷町 常法院葬

二男
実有
植村源之助

宝永四子年八月七日於江戸生〇同年十月
廿七日於江戸〇享保二酉年十二月九日死
葬地同上

三男
実

植村武助

享保二酉年八月二日於江戸〇同元
戌年十月九日出生〇元文元辰年
十二月廿二日於部屋〇明和四亥年十二月
廿六日死六十六歳葬地同上

四男

植村牧之助

明和四亥年十二月生於江戸〇寛政
元酉年十二月廿四日死 於江戸葬
地同上

正房　植村長三郎

高弐百俵

寛政元酉年十二月廿七日家督

高弐百石

家紋　丸ノ内一文字三級
左万字

源姓
植村

植村庄右衛門正勝[redacted]代三郎左衛門正相

同男

正絶　植村久五郎

慶安元子年正月

厳有院様御降誕の時十六歳にて御小性月俸

二十口を給ふ同三寅年八月大御番弐百

俵并米の月俸ハ収公さる寛文二壬寅年
十月廿六日御蔵米ノ内ヨリ加秩二百俵ヲ延
宝八庚申年十二月西丸御小性組ニ列ス天和
二壬戌年九月一統小性組ニ属ス元禄十丁丑年
廩米を采地にかへ仍而武蔵國榛沢郡
にて五百石を知る享保元丙申年十一月廿日
致仕同二丁酉年六月廿二日死八十法名
鮫ケ橋龍台寺ニ葬

正弘
実ハ植村武助正忠が男
植村六左衛門　卯十郎
元禄六癸酉年十二月大御番ニ列シ二百俵ヲ元禄
十二己卯年十二月晦日家督父子大御番ニ書院
宝永二乙酉年八月病免シ享保十二丁未年
閏正月七日死

正富
初正敏
実ハ正弘ガ男
植村七郎右衛門　久五郎
宝永三丙戌年十月廿四日初テ拝謁享保

元申年十二月廿日家督○同九辰年十
月九日大番○元文二年十二月廿九日
大番組頭○宝暦五亥年八月廿五日
西丸新番頭○同年布衣○同六年十二月
十二日西丸御納戸○同十一巳年八月六日御目
付○同十二午年十二月廿四日西丸御納戸頭○
同十三未年八月病免○明和二酉年四月
十二日死七十六歳葬地同上

寅

植村八郎左衛門　左膳

享保二酉年十二月四日御目見○同上
元文五申年十二月廿日家督○宝暦二申
年十二月廿七日西丸小姓組○同明和一酉年
十二月二日御番○同巳元文年死十二歳
葬地同上

卯

植村伝右衛門

明和元甲申年正月二日家督 同年十二月九日初見 天明六
午年六月八日於江戸病死 同年六十寿

当住

植村久五郎

高五百石

天明六午年九月十日家督 ○同年十二
月七日初見

源姓

植村 家紋 丸ニ一 桔梗 五七桐

高弐百俵

植村新六家存（サダメ）二男庄右衛門正勝裔

植村太郎左衛門

当次

東照宮御上洛の時近国の名有人々召
集の砌太郎左衛門ハ武州相原村ニ住居
同村庄右衛門まて相勤
東照宮より以来まて 御鷹野江つきれ候なの

子供之儀ハ尊ニ候と御内々田留守居へ

人并柏尾村名主共ハ名主并ニ

極村名主ニ而相持候ニ付田畑

百姓之事ニ而候処相持候ニ付

ハ大切ニ茂可有之候と御申付候へハ名

主共并正路毎ニ而相立候へ正路毎

之所伝候ニ付他方へ残り候上差候而ハ作

候ニ付相ハ田畑之事ニ附　買受候様

にて跡ニ而御尋のきこし申上候

奉存候以上　土屋家諸家門跡ニ而

中山村名主村中村名主年寄共大庄屋

立會候へ名主年寄共立合之上ニ付

東照宮之御墨附并　御陣のことく西郎

大黒諸合候て見届候処町村

御事ニ付何之書付有之候哉　書付より

のちのため　之上ニ付石奉行ニ付

安永元子年四月　御役所ニ而定文

元禄十年十一月廿日　御番所ニ而

子年十二月廿七日死 六十三歳 麹町
心法寺葬

正忠
植村孫太郎
部屋住より小納戸 但シ 病死ニ小普
請ニ 延宝七未年十二月廿九日死 二拾
三歳 葬地同上

正清
植村弥平次
初伯父植村弥三郎ハ養子なりしか弥三郎ハ実子
かちの後六百石わかちて清弥に賜ひ
勤せしに伯父ハ三郎御目見のことわりあり
常憲院殿格別のことをもて父ハ植村
孫太郎へ由届なされ六百石は収公
○享保六丑年十二月廿二日死七十八歳

正光
植村権之丞

寛文十二壬子年十二月十一日 植村三四郎嫡子

宝永元年十二月

植村平八郎

三四郎

正景

祖父孫太夫養子○宝永六年正月十日

出仕年石ニ而も養父知行之内より

相続之内百俵を下さる○元禄二己巳年九月

二日相続○同年十月大番○宝永

二年正月八日死 法名 葬地同上

正信

植村三四郎

兄孫太夫病身たるにより○家督

より正景を相続百俵被下○家督○

寛文十二壬子年六月廿日死 法名

葬地同上

正之

植村権之丞

伯父植村三四郎病気ニ付私ニ而候ニ付而
父五郎左衛門儀浪人住居仕候ニ付住居罷在候
植之丞儀三右衛門ゟ蒙仰候而ゟ養子ニ罷越
申候 私儀嫡孫右年次跡植村五郎八ニ養子
養子ニ御座候植之丞 [illegible] 養子ニ罷成候
三相立申候
館林様ゟ被下置候右大夫嫡孫右年次跡
館林様御家ニ而相勤候 [illegible] 思召
五郎八養子右年次跡文孫右衛門

出生仕候而右衛門大夫ニ罷出 [illegible]
罷在候ニ付 [illegible]
館林様御家植村 [illegible] 右衛門
出来 [illegible] 八右衛門
二而儀 [illegible] 右衛門
文三郎儀 [illegible] 天和十二
子年十月十日 [illegible]
之以病気有植村右年 [illegible]
八郎 [illegible]

寛延二巳年十二月廿七日死
法名七兵衛葬地同上

正賀　　実正信男
　　　　植村庄五郎

宝永二酉年四月廿九日召出〇
正徳元卯年十二月十六日新番〇享保
二酉年七月六日辞職〇同三戌年七月
六日被仰付〇明和二酉年九月十九日死八十
三法名葬地同上

正之　　実中東信義久次男
　　　　植村平蔵

寛保三亥年二月九日部屋住〇同
年八月十八日西丸御書院番〇宝暦元未年十二月
廿日下総国葛飾郡而〇同二申年正月
廿四日西丸へ〇同月廿九日病気にて〇宝暦
十辰年八月廿日死五十四歳法名葬地同上

正弘　植村荘大夫　本座　常之助

初正路　高四百俵

宝暦十辰年十二月八日御代替○明和六丑年十二月廿二日西丸御納戸○安永六酉年四月十二日病免○天明元丑年十二月廿六日大番

高五百石

源姓　本氏土岐　家紋　丸ノ内一文字揚之　水色丸桔梗

植村

左衛門尉家元叔父代植村稱号

附家嫡子

正則　須藤三郎右衛門　庄三郎

須藤家補任仕而須藤氏と冒称

廣方公ニ

東照宮ニ奉仕

正勝

植村氏義　初 傾治出羽

天文年中信秀より三河安城を攻く

広忠君

東照宮より先仕 植村家の時　御譜代にて

石補しのわけしく清三河ニ在テ織

田より遣れ給ニ渡君漢有松平の城を守

無奉七種落と号しける

三郎君ノ武道物語あへとまりて番倫あり

氏乃一家一族ニ付十月十五日上智

城を攻 静御城ニ座ニ拾を合ハ永禄

二年正月織田家出ニ給陣りく清

須へ使者ハ元亀元年六月廿日江

婦川合戦ニ捨を合ハ同三年味方原

海戦ニ出陣 武名有けり 天正元年同

東照宮の御帰ニより 植村氏義と改称

同二年九月十四日武田勝頼遠江

御陣ゟ之ニ天満川ニ而也一軍功あり〇右
條之通大陣の時小荷駄組ニ入二之安打
捕〇同十二年長久手御陣黒父子
囲中敵不出門入の時候〇同十八年小
田原御陣の時是插書〇文禄元辰
年二月日ゟ死麹町心法寺ニ葬ル

正嗣　　植村太郎左衛門

東照宮之御見
台徳院殿ニ奉仕〇慶長十九寅年大坂
御陣供奉〇忠長卿ニ附属〇辞（寛永四年十月其加役二百石）青
今〇寛文十二子年十二月廿七日死同
寺ニ葬ル

正景　　植村太郎八

寛永元子年（三月）
大猷院殿〇寛文八申年三月病死
御代御書院番〇天和三亥年小普請

〇同寛延元子年隠居被蒙仰候ニ付
し弐百俵之内五拾俵隠居料被下候〇同四巳年
十二月四日病死

正次　植村甚五郎　継之助

寛延元子年十二月廿七日親甚五郎跡式
弐百俵之内百五拾俵甚五郎為隠居料残
相續被仰付候 正次ニ而（?）被仰付候
〇元禄七戌年五月十八日桐間番〇同
年十月廿九日御書院番〇同年十月

九日御書院番〇宝永二戌年十一月廿六
日西丸御納戸〇正徳二巳年十二月廿九日死 輪町
心法寺ニ葬

正朝　植村甚五郎　弥平郎

正徳二巳年九月廿七日家督〇享保
九辰年十月廿九日御書院番〇同年十二月
西丸御納戸〇元文二巳年七月廿六日死 葬
地同上

正芳

植村左平次 吉次郎

元文二巳年九月廿九日御目見○寛保二
戌年七月廿日御広敷番○延享三寅年
二月廿九日廣敷添人○宝暦六子年六月
十日御広敷番○同七丑年九月廿七日
死三十七歳葬地同上

正量

植村政吉

同八年十二月十八日初見

宝暦七丑年十二月二日家督○御庭番
亥年十二月廿日御小性組○同六丑年
三月十九日大納言様附被○同七寅年
同上○安永二午年三月廿日同上○同五
申年閏月日光御供道中御物番○同
年九月廿二日大納言様附被○同九亥
十二月廿七日大御目見代御役○同七寅年
閏月朔日御納戸○天明六午年十二月廿七日
大納言様附被○同年御休息○寛政元

同年十一月廿六日病死〇同十六寅年二月
廿日家督 高〇〇同年十月太郎ト改
御役〇同十卯年十二月廿九日被仰付

正房
植村政次郎
高弐拾五石
寛政九巳年四月九日家督 高〇〇
同十午年二月廿九日病死

高百俵弐人扶持
源姓
植村
家紋 丸ノ内ニ立沢瀉 五七桐
植村新助事 家政次郎又部屋住 政民長
男幼江戸御宿入 清之助政次郎 死後
政明
植村新之郎
政明始父部屋住 政民事文化元年
中
東照宮 御当家の御附属と御戦御供

有様之次第情之様役人公紀して
来り貸しん有之候に付差紙をもつて浜松へ
御厨庄のうち甲力加路より与右衛門方より送
届しに右利三郎父清吉宅へ出し候と
議定之通申之所より出入を越たる事
甲左衛門様より押出し候へしせり
三郎兵衛まで之所に五左衛門様
清右衛門へつまり候清吉宅内
其節はまた五右衛門と急きて御取計

御役所のうちへ駈付ののち出命ありて出取に
ちかはより
東照宮大権現より本在所西條村様
円寺まで入りまゐらして被仰渡清吉寺の
様子へ入これ成るの御力と申つゞけるの
ところ無理清吉清宅へ申しまゐらせ候
掛りまゐりつかへは甚兵衛伊勢屋藤右衛門の
御年寄中を始め両役御出の役人清吉諸
大聞とたへ仕候此節自然

ゑ酒造り商ひやらしに
東照宮ゟ御褒美の御盃を下されて御神酒と
献りしより御酒屋といふ号をたまはりしに
より酒屋の始めなりけるとそ伝へ来
なれは冷酒をも好み宮といひやうけくと
出店ならんとせしに御市中の人々よろこひやさ
けと名を呼ひかはしと

○新三郎殿前

東照宮へ参詣のせつ寺地を御拝領にて殿府へ仕奉

此死去しうらいの相続志なりけれは弟よ藤姪の
ものにかり（のち）御名を飯高郡大津村にて知せ
をこれを殿様に奉りし殿所へ奉公をなしける

宿首光人寺へ葬

改葬　植村新右衛門

伊勢国飯高郡大深村住士にて寛永
十四年十二月廿九日死　同日出生田異村生楽
寺葬

植村四蔵太夫

政言

大澤村八王寺宝永元甲申年九月廿七日

死七十九歳葬地同上

植村山三郎

政恭

大澤村八王寺享保六辛丑年四月十二日

死七十五歳葬地同上

植村彦平次　新甫

政勝

初紀伊殿ニ仕ヘ享保元申年中奥御小姓九八

有徳院殿ニ従〇同年十月廿八日御家人ニ被召出御庭

方御廣敷添番格之人被召出御役被為被

相勤候處御役料御加増被下候〇同二酉年

十一月より寛延根来相勤候ニ付宝暦〇

同五亥年宥野日光(?)人参方〇同

年八月同十閏〇同年九月十二日病死葬地同

在所ハ上野國一万石余本在上野國
郡○同年十二月より出陣今日迄ニ○
同六丑年（十二月）山城近江信濃若
狭丹波丹後但馬九ヶ国出陣同年十二月開陣○同
年（十一月）陸奥出羽常陸三ヶ国出陣同年十二月開陣○
同七寅年（八月）武蔵相模駿河甲斐五ヶ国出
陣同年十一月開陣○同八卯年（十一月）下総常陸安房
相模伊豆甲斐三ヶ国出陣同年十二月開陣○同
（十一月）甲斐へ出陣同年開陣○同九辰年（六月）甲斐へ
出陣同年十二月開陣○同年（十一月）武州近
在出陣同年開陣○同年（十一月）同へ○
同十三年（六月）野州日光へ参詣開陣○同年
（十二月）武州近在出陣同年開陣○同年（九月）同へ○同十
巳年（六月）野州日光へ参詣開陣○同年（九月）武州へ
近在出陣同年開陣○同十七年（十二月）伊豆駿
河出陣同年十二月開陣○同年（十一月）伊賀伊勢大和
紀伊ニヶ国出陣○同十八未年（二月）相模武蔵根
出陣開陣○同年（三月）伊賀伊勢紀伊大和

第十四閏〇同年十一月廿九日武蔵秩父郡多
摩之郡第十五閏〇同年十二月廿一日出足
并捨七兵衛之人扶持令申之藤原正人扶
持之加之礼伊賀守揉〇同月廿七日出見之
之百以外之武之令拠之之不以而加え
御目付より江戸町以在家御取扱ニ
之外也取合之無當之以下之者取合之其
五之以下以〇同十二日年[斉]河淡路河内
上伊勢大佐河国第十五閏年之第廿人分

并沢新及前和泉摂津京都及将軍家
卿等国以酒依之年寺山年来之御政府
卿等国及今閏年右閏目数之内右州依
之数大津村等ニ支之無方之三百石之
之目白取之年〇同十四日同年[斉]山城大和〇同
伊賀伊勢紀伊六ケ国第十五閏〇同年
九月武蔵以見之等第十五閏〇同年十月戊年[斉]
武蔵近江之第廿閏〇同年[斉]武蔵上野
下野信濃甲斐駿河第廿閏〇同十六

六年四月尾張美濃信濃飛騨信濃越中
越後等事聞○同年八月武烈紀之在位第
第十四年○同七子年伊勢美濃等越
兼紀伊等第十年大日我八幡勢力紀大倭
村母方へてに寄方之曰白紙○同年十月
武烈紀近在位第四年○同年八月廿年八月
武烈紀在位第二年○同年十二月日之人
冬同月○同十九年十二月大和伊賀伊勢
志摩等之紀等第四十年之文伊勢大倭

村母大病紀之有てに寄方寄流し寄方紙
之云毎年三月方一種令丹百種拝紙○
同年七月武烈紀之在位第四年○同月
春日ノ紀寄国寄之以令之加第二十年開
陽宮之築○同年八月武烈紀之在位二十年開
○同六年四月大和伊勢志摩之河
伊豫等之開　陽宮築第複済伊等国
等ハ○同年八月武烈紀之第十年開
○同年九月紀之上第文開○同廿一年度
二十ヶ

日光山ニ而被 御植付候ノ尾張様ヨリ人参
苗日光ヨリ東山宇都宮ハ所山ニ出し下御渡
陸奥会津山ニ而尤分同年被仰付候菅東
御開○同年武州紀州在ニ而紀州開○同
年八月人参生[illegible]同年十月日光山
カタクリ開○同年十二月[illegible]差
自ら太行[illegible]日光山人参
武州児玉郡河内村人参開○元文二
巳年十二月紀伊国[illegible]開発

[illegible]伊豆[illegible]尾張[illegible]
子ヨリ人参○同年十四[illegible]開
○同年十二月武州河内村人参[illegible]日光
人参開[illegible]信濃郡[illegible]村候之
陽[illegible]人参○同年八月[illegible]武州[illegible]在
[illegible]開○同年十月武州[illegible]在相州[illegible]
人参[illegible]紀州開[illegible]武州[illegible]郡
宮[illegible]村[illegible]相[illegible]人参○同年[illegible]
十一月[illegible]

加藤極之丞儀是迄孫右衛門合同様之授
持○同十一年未西方村安楽寺丸山分満
開山○同年二月十日会住職之内
開○同年十六月武州紀州貞観人参丸分○
同年八月廿七日西開○同年十九月渡
席ヶ所田畑開○同年十一月
十八日武州紀州之郡芝村之住所四ヶ寺
四植付開○同四年二月武州紀見
武州小平村之自寺ニ付之安芸梅

同分寺安楽寺ゟ分○同年十二月廿七日
武州加茂山丹沢之安楽寺ゟ分○同年
八月上旬紀州藏山ゟ分之文分野州日光参
植場ゟ分○同七年相模渡河安楽寺
開○同年十月十日住職安楽寺開○同年三月
同七○同年七月十日住職寺開○同八月
十八日日光参開一寺隠居○同年十月
武州河内村参開隠居寺○同六月寺
住職安楽寺開隠居寺○同年十二月廿七日

近江御用○同年三月十八日箱根山御救
候ニ付為御見分○同年四月日光へ御参詣御用
○同八月日光並武蔵国阿須村へ御参詣御用○
同年九月十七日より御在所へ御暇御用○同年
十二月廿日叙爵被仰付○宝暦二申年 近江
若年寄より御用○同年四月野州那須山ゟ御
支配所御用○同年若年寄衆中御用信濃宗門
年貢御取箇御用申上候ニ付大坂へ信
濃国○同月若年寄衆中御用○同年

十二月十五日より御鷹場御鷹匠衆不残
並ニ加増之人被仰付候ニ付御鷹場
並ニ御用被仰付候○同月十日より御用相勤
二月廿日被仰付候○同三月廿二日伊勢 近江
并濃州堺若年寄衆中御用日数十日御暇ニ付
無御之御出ニ付○同年十二月若年寄衆中御用○
同年十二月廿日御役御免被仰付候ニ付御返事
元年十二月十日若年寄衆中御用○同年四月
日光へ御参詣御用○同年十月日光へ御参詣御用

○同八月〈九日〉従府出宗園朝臣○同二十七年

十二月〈十日〉日光人参宗園朝臣○同八月従府宗園

朝臣○同月日光人参宗園朝臣○同年九月日ニ

武蔵野御猟場[illegible]人参○同年十二月

十二日御役ニ付参出宗〇同〈宝暦年中〉○同二年十二月

日光人参宗園朝臣○同年八月武蔵ニ在

相模国金沢御用朝臣○同年十四月

日光人参宗園朝臣同年〈御〉従府出宗園朝臣

○同六年十一月日光人参宗園朝臣○正二位宗居

年四月従府宗園朝臣○同年〈閏六〉日光人参朝臣○宣下延

二年正月日光〈人参〉朝臣將軍家斉公御昇進

従府出宗園朝臣同月○同年十二月任正二位

[illegible]紀宗園朝臣大臣宣下○同年十一月

於京都御[illegible]御猶子[illegible]儀○同三年

年宗月

右中宗園朝臣日光人参武蔵国[illegible]

将軍○同年十二月十二日[illegible]令拝覧

今上[illegible]年[illegible]○同年[illegible]十六日

前々殿より頂戴仕候〇宝暦二申年十一巳
候日日光山御宮〇同ニ西年八月廿二日
同上右ニ而御関御修復之儀被仰付候上
日光 御宮御遷宮ニ付御礼
有徳院殿御清書 御蔵ニ在之候節御
清書ハ只今迄御預り在之候得共
右ニ付候ハヽ少々京衣拝見仕候而尊
御往之筆跡同断 御蔵ニ在之ニ付御返
下之仕合 云々ニ及私方ニ而久々ニ而相偏ニ

御蔵ニ在之候ハ御拝借仕候而御清書ハ只今迄御預り置候ても
至而御尊筆之御儀ニ付 御目出度々 頂戴
御取御清書之御写ニ入候ニ付 御心之仕合
存候 右之段御申上候 様子等
御宣下御座候者也
惇信院殿
浚明院殿 御蔵ニ在之候御染筆拝領仕度
右之〇宝暦四戌年七月十七日病死
〇明和元申年十二月十六日被仕判形

新開主殿称○安永六酉年十一月八日死

八十三歳武蔵荏原郡北沢村森巌寺ニ

葬

○右ハ諸家過去帳ニ出、安永六年ニ

年ニ編集ニ在ル手紙上ニ見ル旨

有徳院殿御年より語ル故ニ採撰楽記抄

御ニ而ハ　高輪芝泉岳寺ニ在ル手紙　上ニ見ル

惇信院殿へも上ニ見ル文ニ在り○

有徳院殿御自ら縫作色麻布の上羽

織下され候○宝暦元年辛未十二月十二日

有徳院殿より麻上下染帷子黒羽二重織物下され候

○按ニ紀州ニ住持せしは右ハ諸家系譜ニ見ゆ

十二月十八日　紅葉八幡宮へ御成の時ニ参詣

御召　赤坂田町　檜原より神農ニ

織物上絵いたし候ニ所々紋節勧に

事保麻黒縁ニ森茂之御附

小笠原石見守○寛政以後

有徳院殿へ上ニ見ゆる御手より石見守より

右者父源三郎家督之節取持

政辰　植村左源次　辰卯

寛延元辰年十月廿七日御鷹場出役囲
開元年見習七人扶持○同二巳年十月廿
十二日目見人参御用父同所○同年十一月廿
駿府江薬種御用父同所○同年十二月廿
其年中病気ニ付御用御免被仰付○

同年十二月廿日御鷹場出役○寛
延三午年十二月廿日目見人参御用○九月廿七日
同人○同年十二月廿二日御参府之節之儀
年々○同四未年九月日見人参御用
○宝暦二申年三月十六日御用之儀之節
拾○同年十一月十二日目見人参御用之儀
同五亥年四月十二日目見人参御用　四月十日目見人参御用四年
年々○同六子年七月廿二日在所出立之節
其外御用○同年十二月十日人参御書付被仰付
御褒美銀○同九卯年十二月十九日御人

表右筆組頭之役○同十四年十二月
廿六日任※常学御用○同十七年十二月（宝暦元未年同年）
一 廿三日奥右筆組頭役（宝暦の三月迄）○同十二年八月廿
九日揚切米人参之実出精ニ付被下奥右筆組
頭役○同年十二月廿日御右筆組頭之役（人参之）
○同十三未年十六月廿日解任人参之御（二月十一日戊子延享元年至宝暦未年同月同年。）
用掛十一月廿九日如旧役出座之御用掛青
預り帰福○同年十二月五日人参之御用
第○同和元申年十二月十六日右林中入合

右御用勤候ニ付組頭之役○同年十一月廿七日
如是奥右筆申渡候之所御帰服（人参御用）○同
年十二月廿六日御加増○同月御白書院組
頭役○同二酉年十二月十九日人参之御用
組頭役○同三戌年十一月廿六日加増奥
右筆○同四亥年十二月廿日人参
之御用組頭役御役料被下○同五子年十六
月廿八日人参之御用為御精出役料百俵
小普請支配被仰渡○同年十一月

野呂氏より奥方組人参御用○同五年十二月廿八日
組頭役○同六丑年十一月廿九日人参御用
座組頭役○同七寅年十二月十六日御[illegible]組
奥方組人参御用十二月九日座組頭役○
同月廿七日組頭役○同八卯年十二月廿六日
組頭役○同九辰年八月廿日野[illegible]方組出役
奥方組并外人参御用十二月十四日組頭役○
同月[illegible]日組頭役（辞之[illegible]）○安永二巳年
三月[illegible]組頭役○同三午年七月

者野呂氏より奥方組佐方組人
参御用十二月廿日座組頭役（是衍ナリ）十二月廿六日同
頭役○同四未年七月十六日人参御用同
三年十二月廿四日組頭役○同五申年四月
日光御作事御番勤　是迄者人参用
所ニ而朝鮮種人参畑之儀御任人
立仕舞　上之者○同年七月廿日野呂氏
奥方組人参御用十二月廿日組頭役（此者年〻成[illegible]）
○同七戌年八月廿八日野呂氏より奥方組

従五位人参座用掛同役○同八亥年十二
月廿五日諸病出来候間御役御免年来出情
ニも致度旨被仰付候　思召之候
時服弐○同九子年七月廿一日より仕候定
寄合○天明元丑年三月十日病死○
安永十年七月廿日死七十歳葬地
同上

政養　植村氏年号　杉之助

明和六年十二月九日初見○同八卯年十二
月廿三日部屋住ニ而西丸書院番入○安永六
酉年八月廿日部屋住人参座用見習○
同七戌年八月十八日部屋住より家督人之
人参座用掛○同八亥年十二月十五日
人参座用掛相役被仰付○同九子年七月廿八日

武蔵国葛飾郡奥戸村人参御用○天明元丑
年同国葛飾郡柴又村人参御用相勤○
同二寅年十一月武蔵国都筑郡奥
若林村人参御用十二月廿八日人参製法
伝授相勤同所相勤○同三卯年
人参製法伝授相勤○同四辰年下野国
那須郡芦野村人参御用十一月御
製法伝授相勤○同五巳年十一月廿八日人
参製法伝授相勤○同六午年十一月廿三

野国那須郡芦野村人参御用十一月御用相
勤候○寛政元酉年十一月十一日人参
御製法伝授相勤候ニ付御賞美白銀
四枚頂戴新規御地面ニ而七十七両被下
○同年十二月廿八日御手当として金三両被下
之○寛政二戌年武蔵国近江佐也之
御用○同七卯年十二月廿日小金原御厩
御用相勤○同十午年十月廿五日御勘定

政壽　植村壽之助

寛政十午年十二月廿六日初見

菅原姓

植村

先祖之譯

紋　九拾張三人に

家紋　[illegible]丸　九曜

正矩

植村八兵衛

櫻田の風の流の内の廣安文流者の兵学二郎

年四月廿五日死　市谷[illegible]寺葬

正直

植村安兵衛

延宝三卯年七月桜田御殿ニ而御目見
○同七未年三月十五日御膳番（桜田二而）○元禄
十四年十二月御勘定（同日）宝永元申年
十二月廿一日西丸大番頭○同六丑年
十二月十二日御小納戸○（享保元年四月十日御小姓組頭）享保十年
十二月十六日死去葬地同上

正附

植村兵之助

正徳五未年二月廿七日初而御目見○宝暦

元文未年三月九日初而○御小納戸七歳年
十二月二日御当分御番入中御番頭
格同八卯年十二月廿二日八日御当分御番
頭格同九辰年二月廿五日
当分○安永二巳年十月九日死去弐拾九歳
葬地同上

正室

植村丹次（実者樋口六左衛門次男）

織部

安永二巳年十二月廿七日（十八歳）初而御目見○

同安永年十二月廿六日初而御目見　天明三
年十二月十日死　法名種永　葬地同上

某

植村八三郎

明和八卯年十二月廿五日生　寛政
御届ニハ〆候ニ付　同九辰年十二月廿五
日為御届之節相洩有之候ニ付
同年四月十三日中追放　天明三卯年
十二月廿六日中追放ニ而赦免

正臈

植村熊蔵　実八郎

高九拾俵弐人扶持

安永九子年八月十二日深見惣左衛門二男
同天明元年十二月廿六日御番入
同十年九月廿五日初御目見

東照宮御代

植崎

高百俵二人扶持

源姓

家紋 黒餅之内上羽蝶 黒餅之内星綱

先祖不詳

改直 将監

東照宮関原御陣之時御忠節有之

元和二月廿日出奔地之御人〇元和元年

其後老隆小隙ニ而籠居

政久　三之丞
寛永七年弐百石出羽守長従○慶
安四年小十人組勤○寛文元年致仕
○延宝九年四月廿五日死　石川
善行院道貞

政次　源太郎
寛文元年出羽守長従○延宝八年
家督○宝永五年七月十七日死同
前

政則　与太郎
二男

寄合○延宝八年家督由長役○元禄十二年六月十二日進物取次下役○宝永四年六月十二日進物取次上役○正徳五年加増十俵○同六年三月十六日死同所

政之　新蔵
享保元年八月十五日家督○同年

五年三月十六日二丸表台所番○同十六年十二月十六日因安半人○延享二年四月十七日死四十二葬同所

政信　孫市郎
延享二年四月六日家督○宝暦十三年十二月十七日初見○安永四年二月廿七日御勤定不書抱御用○同五年

四月廿七日出関海鼠千枚○天明二年
七月廿七日致仕

政由　九八郎

実盛田九千郎正之之二男

天明二年七月廿七日家督○同年
十二月廿二日初見

常憲院殿御代

桂田　源姓　高二百俵

家紋　四ツ目結　橘

近江國甲賀郡之桂田村之住人桂田
左衛門某代（御家人被召出）桂田意休ニ至リ重春
子孫也

満言

左助　善悦　定之助

（実同氏新兵衛某次男）
養子○家督五千俵二人扶持善悦

之後御廣間方相勤仕内奥御右筆○
御納戸方○元禄六年十二月七日表
坊主ニ被○同七年正月十一日廣小姓
百俵五人扶持被下置候其年御加増○
同年五月六日御次番二百俵ニ成
○同年十一月廿五日相模之間御番○同九
年七月四日御道具番○同十年月不詳
御役御扶持ニ付
常憲院殿御筆之御画拝領○

同十二年五月十八日御次番ニ御番○
宝永六年二月廿七日一統小普請○
享保二年四月廿四日死 四十五歳 牛
込宗福寺葬

道高 庄三郎
実村田九八郎猶明惣領
正徳三年八月十六日家督○享

保二年六月廿七日家督○同九年
正月廿六日御勘定○同十七年九月
廿四日死二十二葬小日向生西寺

言改

庄助　九十郎

享保十四年十二月十二日家督○延享元
年四月六日小十人組○同年八月廿五日
田安近習番○同三年七月五日死二十

三歳同寺

猪之助

親定

實　紀州家坊主　桂田長勝某二男

養子○延享三年十月二日家督○寛
延二年九月廿一日実父桂田木工儀安田
越之助殿二付御詮議候て上揚り屋へ被差置
候之同年九月廿二日御不届之事ニて之被○

同年十二月ヨリ七條少將殿家司兼御附人
同月五日ゟ依遠慮之趣同二年十二月
十日赦免之○宝暦四年八月朔日死亡年
三十歳 同寺

業充 勇左衛門 致仕安易
罷要用人御附
実 松平利左衛門氏庸惣領
養子○寶暦四年十一月四日家督○

寛政九年七月廿五日致仕○同十一年
三月六日死亡年六十二歳 同寺

元高 彦助 後之丞
罷要用人御附
実 松平利左衛門氏庸三男
天明七年十月廿九日養子○寛政九
年七月廿五日家督○同十年八月六日
西丸半人組

東照宮御代

桂末　高百俵拾人扶持

源姓　家敬 九月生高 相母西也相

桂末左馬尉季門十七代後胤

孫左衛門尉勝季長男

勝信

孫左衛門

天正四年五月三日長篠ニ而死去

寛永書役弐拾石加○同十八年
関東御金奉行○御代官○慶長
五年九月死

政信　孫作
慶長五年関ヶ原御陣供奉
同十九年元和元年大坂両御陣
供奉○寛永元年御天守番○

同十八年六月十七日死四谷寺町
養国寺ニ葬

清之　又右衛門
寛永十八年八月家督○同二十
年浅草御蔵加俸弐拾俵○元禄
六年浅草御蔵相止依之付小普請
同年十二月二日致仕○同十一年

七月十二日死同所

清勝　篤助　喜之助

元禄六年十二月家督〇同十年十月十四日養父之遺〇同十三年十二月廿八日加秩弐拾俵〇宝永五年二月廿八日御徒押〇同年十二月廿九日御徒目付加秩四拾俵合百俵〇享保三年三月廿四日小普請方〇同九年九月四日死同所

勝邦　源四郎

享保九年十二月十二日家督〇同十三年三月廿七日西丸小十人組〇同二十年八月廿六日死三拾五歳同所

勝澂　虎之助

享保二十年十一月八日養子〇延享三年六月十五日初見〇同四年十一月十日死弐拾九歳同寺

久澂　実　安三郎

延享四年十二月廿四日養子家督
宝暦八年十月廿八日初見〇同年十二月継父宮内少殿進香奠〇同十二年八月廿五日死三拾壱歳同寺

宣亂　藤助　甚之助

宝暦十二年十一月二日家督○同（安永）九年十二月廿三日初見○同八年四月十九日致仕

勝業　季八郎

寛政八年四月十九日家督

常憲院殿御代

○（高）桂林　高三百俵

藤原姓　家紋　三本傘　丸内弦巻

桂林小八郎某三代徳右衛門実道長男

実房　小兵衛

延宝九年九月廿八日家督十七歳

五丸殿附○元禄四年十二月六日
御広敷御用達（百五拾俵）○同八年十二月
廿五日加増五拾俵合弐百俵○同
十五年三月廿九日寄合○同年十
二月廿二日加増百俵○享保十五年
十二月十九日死七拾弐歳深川西光寺
葬

実父　宋安　小普請　後藤桃庵

享保十六年三月二日御目見○寛（享保六年八月九日御部屋入）
保二年三月九日御小姓組○延享二
年九月十日
大御所附○寛延元年七月十二日
同小普請○同二年五月廿四日御
小姓組○安永二年八月廿六日老
免金弐枚○同年十二月廿九日致

仕○同七年七月廿九日死七拾五歳
牛込蓮光寺ニ葬ル

実包

小兵衛　孫十郎　重十郎

実小林孫左衛門正常三男
宝暦三年三月十四日聟年養子○
安永二年十二月廿九日家督○同四
年二月廿四日惣小性組○同七年
十二月四日大的始ニ而○寛政三年
七月十二日死五拾八歳　同寺

實弥

小市　勝義

実熊澤為次郎渡好四男
安永七年三月廿六日聟年養子○
寛政三年十月四日家督○同四
年九月廿五日初見○同六年三

月廿二日中黒乗寄○同年十二月
文記書後差扱

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan